

17:11 そのころイエスはエルサレムに上る途中、サマリヤとガリラヤの境を通られた。

17:12 ある村にはいると、十人のツアラアトに冒された人々がイエスに出会った。彼らは遠く離れた所に立って、

17:13 声を張り上げて、「イエスさま、先生。どうぞあわれんでください。」と言った。

17:14 イエスはこれを見て、言われた。「行きなさい。そして自分を祭司に見せなさい。」彼らは行く途中でいやされた。

17:15 そのうちのひとりとは、自分のいやされたことがわかると、大声で神をほめたたえながら引き返して来て、

17:16 イエスの足もとにひれ伏して感謝した。彼はサマリヤ人であった。

17:17 そこでイエスは言われた。「十人いやされたのではないか。九人はどこにいるのか。」

17:18 神をあがめるために戻って来た者は、この外国人のほかには、だれもいないのか。」

17:19 それからその人に言われた。「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰が、あなたを直したのです。」

17:20 さて、神の国はいつ来るのか、とパリサイ人たちに尋ねられたとき、イエスは答えて言われた。「神の国は、人の目で認められるようにして来るものではありません。」

17:21 『そら、ここにある。』とか、『あそこにある。』とか言えるようなものではありません。いいですか。神の国は、あなたがたのただ中にあるのです。」

だけでした。残りの9人にとっては、神様などはどうでもよいのです。ただ自分の願いがかなえばよかっただけでした。

私たちもそのような心でないか考えてみる必要があります。祈りますが、それが聞かれると祈ったことさえ忘れてしまう…。そんなことはないでしょうか。

神様が祈りに応えてくださるのは、私たちとの愛の交わりためです。主が生きておられ、私たちのような罪人の祈りに聞いてくださる主の愛を感じたなら、その主に心からの感謝をささげましょう。時にはささげものや奉仕によって感謝を表わしましょう。

また神の国についてイエス様は、その思い違いを正されます。当時の人々は神の国とは、ローマ帝国に対抗できる国家とっていました。また現代のクリスチャンなら、やがて来る天国と思う人もあるでしょう。

しかし神の国の本質は神の支配です。心が聖霊に満たされるならそれは神の国です。交わりが主の愛によるならそれも神の国です。その結果国家が祝されれば、旧約のイスラエルが繁栄した時期のようになります。また神の支配の永遠・究極のものが来るべき天の国です。

神の国を求めましょう。まずは自分自身の心が神様に支配されることを望みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

